

The TENDAI journal

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 小林 祖承
〒520-0113 大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：T-Press@tendai.or.jp

令和5(2023)年1月1日 日曜日
(毎月1日発行) 1部 50円 (消費税込・送料別)

天台ジャーナル



広報天台

慈愛の心で助け合い



全国一斉托鉢は「宗祖伝教大師の精神を現代に生かそう」と昭和61年に始められ、当時の故山田恵諦天台

座主猊下も自ら先頭にたつて浄財を集められた。平成9年(1997)からは12月を「地球救援活動強化月

天台宗では毎年12月1日に全国一斉托鉢を行っており、昨年も各教区や各部など全国で実施された。37回を数え「師走の風物詩」と親しまれている。この日を含め、寄せられた浄財は一隅を照らす運動総本部の地球救援募金などを通じて国内外の福祉活動等への支援に活用される。

天台宗全国一斉托鉢

間」と定め、12月1日を全国一斉托鉢の日とし、「慈愛の心で助け合い」をスローガンに一隅を照らす運動の各教区本部、個別寺院単位で実施されている。

こうした毎年の取り組みが師走の行事として定着。全国の約41カ所では、托鉢行脚はじめ、街頭募金やバザーなど様々な方法で実施されており、心がこもった浄財が全国から年々多く寄せられている。

同日に比叡山麓坂本地区で行われた托鉢には、大樹孝啓天台座主猊下を先頭に、阿部昌宏天台宗宗務総長、水尾寂芳延暦寺執行、延暦寺一山住職並びに職員、天台宗務庁役職員ら約100名が参加。宗祖生誕の地・生源寺で大樹座主猊下の導師で法樂後、坂本地区の里道を戸口で読経しながら托鉢行脚を開始した。玄関口で待ち受ける人も多く、心を込めた言葉を添えて大樹座主猊下に浄財を託す方もいた。また戸別托鉢、JRや私鉄の駅で街頭募金も実施された。

なお寄せられた浄財は、NHK歳末たすけあいと同海外たすけあいの他、各地の社会福祉協議会や日本赤十字社に寄託される。



謹んで新年のお慶びを申し上げます

天台宗
一隅を照らす運動総本部

極微

正月の門松には、めでたいとされる松、竹、梅が使われる。松と竹は冬でも緑を保ち、梅は厳しい寒さの中、花を咲かせることで吉祥のしるしとされている。

そうだ。吉祥にあやかっか、寿司屋などでは価格を「松竹梅」で表示したりする。注文で多いのは、「竹」のようでお客の心理がよく分かる。「中」が無難な選択で安心できるのだから。▼同じ「中」が安心の指標としても、日本を始め世界の人々の懐具合は近頃、安心できない様相を見せている。少数の富裕層と貧困層との間の中間層の割合が大きいほど経済の明るさを感じさせるものだが、世界的にバランスが崩れてきているようだ。富裕層はより富裕になる一方、中間層は雪崩を打って貧困層に向かっていくという。経済のグローバル化の影響であり、このところの経済不況の結果という。おまけにロシアのウクライナ侵攻の影響で物価も世界中で急上昇している▼日本の場合は賃金は上がらず、経済浮揚のための円安維持政策で、余計に物価上昇に苦しんでいる。これに対する政府の対応は赤字国債頼りのお金のばらまき政策のみのような。国の借金が増えるばかりである▼日々の物価高にあえぐ庶民のせめてもの夢は、1度で良いから高級寿司屋で「松」という特上を食べて吉祥の兆しを見たいという位か。いささか寂しいことではあるが。